

1. 科目名 (単位数)	死生学 (2単位)	3. 科目番号	GELA1352 GELA1332
2. 授業担当教員	鈴木 康明		
4. 授業形態	講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。		
8. 学習目標	1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。 2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。 3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。 4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。 5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：新聞、インターネットなどから幅広く「生命の尊厳」に関する情報の収集を行い、それについての自分の意見をまとめる。 レポート課題：死生学の講義を通し、関心をもった事柄を取り上げ内容と自分の考えをまとめる。A440 字×40 行、2 枚程度		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 鈴木康明 監修『いのちの本』学研。 石丸昌彦他 編『死生学のフィールド』NHK 出版		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 死生学に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 肯定的な人間観、人生観を形成するための努力をしようとしているか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の20% 2 課題レポート 総合点の60% 3 日常の学習状況 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	パスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかつたので、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べており、まさに至言です。しかし、だからこそそれらについて皆さんと考えてみようと思います。どうぞ、思考力、創造力、問題解決能力を駆使して取り組んで下さい。 ※配布した資料は必携です。		
13. オフィスアワー	授業内に周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・死生学について	事前学習	受講動機を確認しておく。
		事後学習	主題について振り返る。
第2回	(1) いのちの選別 ・胎児条項	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第3回	・優生思想	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第4回	(2) 生から死へ ・生きる道筋① (乳児期幼児期)	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第5回	・生きる道筋② (青年期)	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第6回	・生きる道筋③ (老年期)	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第7回	・認知症	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第8回	(3) 戦争と死、喪失 ・避けられる死	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第9回	・過去と未来	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第10回	・アウシュヴィッツから学ぶ	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第11回	(4) 悪性新生物による死 ・痛み	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第12回	・ホスピス	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第13回	(5) 喪失の悲しみ ・死別	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。

第14回	・遺族・遺児支援	事前学習	あらかじめ資料を読んでおく。
		事後学習	主題について振り返る。
第15回	・ダギーセンターから	事前学習	これまでの学びを整理しておく。
		事後学習	全体を振り返る。